2022.10.15

2022 年 10 月北アルプス・立山登頂記

惠谷　浩

2022 年 10 月３日（月）から５日（水）に渡って、広島県立福山工業高校機械科昭和 37 年（1962 年）卒業の同級生・大谷君と一緒に、世界有数の豪雪地帯といわれ、紅葉に映える北アルプス・古来より信仰の対象として神々が宿る精神的な立山の３峰のうち雄山（おやま）3003m と大汝山（おおなんじやま）3015m の麓・室堂に行き、登頂、帰宅した。なお、筆者は半世紀以上前・昭和 44 年（1969 年）８月末、山口大学２年生のとき、所属していたワンダーフォーゲル部の４人用テント、ラジュースなどを借りて１人で雷鳥沢キャンプ場にテントを張り、サブザックを背負って立山３峰、雄山・大汝山・富士ノ折立 2999m、翌日に剱岳登頂を経験している。

紅葉の時季、宿泊の予約が取り難いことと、天気予報の良い日を選ぶために大分苦心した。10 月２日 5:00 発表の天気予報が富山県立山町では 10 月３日曇時々晴、10 月４日曇一時雨、10 月５日曇のち雨、また立山町の南側の大町市では 10 月３日曇、10 月４日曇時々晴、10 月５日曇一時雨で、決して登山日和とは言えなかった。なお、この立山登山は３年前に高校の喜寿クラス会で大谷君と一緒に皆に参加を呼びかけ、新型コロナウイルス禍のために延期していたものである。また、喜寿クラス会の前年のクラス会において同じ２名で呼びかけ、小田君を加えた３名で北アルプス・乗鞍岳 3026m に登頂した。しかし、齢とともに皆さん体力が衰えている様子、さらに筆者の女房の病気の進行ということもあり、コロナウイルスに対する行動制限がなくなった現在、天気予報は良くないが登山決行を急いだ。

10 月 3 日（月）東葉高速鉄道北習志野駅 9:07 発、大手町駅 9:43 着。歩いて東京駅へ。東京駅 10:24 発の北陸新幹線かがやき 509 号で 12:31 富山駅へ着。広島県福山市から来た同行者と落ち合い、富山地方鉄道本線の電鉄富山駅 12:52 発の電車に乗り 13:55 立山駅着。14:40 黒部ダム建設のときに資材を乗せたという貨車が後側に連結されている立山ケーブルカーに乗り、14:47 美女平に着。15:00 立山高原バスに乗り、スピードを落としてくれた車窓より日本一の落差 350m の称名滝を望んだ後、弥陀ヶ原ホテルが建っている弥陀ヶ原と立山高原ホテルのある天狗平に停車し、15:50 室堂・標高 2450m/室堂ターミナルに着。そこにはホテル立山・郵便局・飲食店・売店が併設されている。

14:04 立山駅を背にする同行者と筆者(右)

14:35 立山ケーブルカー

15:04 称名滝/滝の下部は木陰に

15:28 弥陀ヶ原のホテル

室堂に着くと、中部山岳国立公園・立山と刻まれた巨大な石碑が出迎えてくれていた。その横の立山玉殿からは湧水（冷たい軟水の清水）が流れ出ていた。今日の宿である日本一高所・2410m の温泉宿・みくりが池温泉に向けて遊歩道を途中の光景を楽しみながら歩く。晴間に所々薄雲が浮かぶ天候の下、16:07 雄大な立山を望み、感動。

15:41 天狗平のホテルと立山

立山の地図/昭文社発行の山と高原地図 37 剱・立山 2019 年版の 2 万 5 千分の 1 地図

さらに、火口湖で周囲 600m・深さ 15m の緑色を帯びた紺碧のミクリガ池のほとりとなり、カメラのシャッターを押し続けた。場所によっては、湖面に立山や浄土山が映され、誠に神秘な光景。また、火山性ガス・有毒ガスが噴出している地獄谷を見下ろすが、縄が張られ立入禁止の標識。17:00 頃にみくりが池温泉に着。予約出来た寝る場所は 10 人部屋で 2 段ベッドの上段、2 食付 1 泊・11,300 円。ベッドは新型コロナウイルス禍対応に改造されており、各個の両側と前側に天井から布を下げられていた。19:00 からの夕食までに時間があるので、硫黄の香りがするにごり湯で湯量豊富な天然温泉にのんびりつかり、夕食。同行者とカップ生ビール・400 円で、明日の立山登山の成功を祈り乾杯し、富山湾で捕れた魚介類が旅館のように豊富で豪華な夕食。21:00 消灯で就寝。

16:01 石碑と立山を背にする 2 人

16:03 立山玉殿の湧水と立山

16:11 雄大な立山を望む/山肌の白色は石灰岩の岩・砂

16:20 ミクリガ池と立山を背に

16:21 ノヂシャの花だろう

16:23 みくりが池温泉と立山

16:23 噴煙が上がる地獄谷を望む

16:27 紺碧のミクリガ池の湖面に写る逆さ立山(左)、浄土山(右)

16:28 ミクリガ池の湖面に映える立山と紅葉の立山

10 月 4 日（火）4:30 起床。この 21:00 就寝、4:30 起床は筆者の常態と一致。直ぐに屋外の広場に出て見ると、薄雲と晴間に数個の星が見える。予報以上の好天が見込まれ、今日の立山登山への期待に気が弾む。サブザック

にペットボトル水、パン、予備食・ビスケット、上着、雨がっぱ（防寒用）を入れ準備。6:00 から朝食。計画よりも少し早い、7:10 出発。往路と少し変え、ミクリガ池とミドリガ池の間を歩き、立山から昇る朝日や池塘、約半世紀前と変わっていないようなミドリガ池も望んだ。7:40 立山室堂山荘。その横には現存する日本最古の山小屋である立山室堂（国指定重要文化財）があり、見学した。内部は撮影禁止。「室」とは宿泊所、「堂」とは宗教的な施設を意味し、二棟あり、北室は江戸時代中期の享保 11 年（1726 年）、南室は明和８年（1771 年）に建立されている。平成４年から３年間をかけて解体修理されたそうで、非常に太い柱の下側は接木されていた。また、立山の霊地としての歴史は古く、奈良時代後半には信仰活動が行われていた痕跡が確認されており、文献に「室堂」の名が現れたのは元和３年（1617 年）が最初で、加賀藩二代目藩主前田利長の夫人の玉泉院が立山室堂を再興したとあることから、この時すでに建物があったことがわかるという。立山室堂のすぐ先には小さな阿弥陀如来の石像などがあり、霊地としての立山を伺わされた。

6:09 旅館を想わせるような朝食

7:10 みくりが池温泉の前の 2 人

7:17 立山から昇る朝日（右）と池塘（中央）

7:17 朝のミクリガ池

7:22 朝のみくりが池温泉（左）

7:26 ミドリガ池と立山から昇る朝日

約半世紀前のミドリガ池と立山

7:40 立山室堂山荘

7:41 立山室堂（重要文化財）

7:49 霊地を伺わせる阿弥陀如来像など

ネットのウィキペディアなどによると、立山は大宝元年（701 年）に越中国司の子・佐伯有頼によって開山され、伝説によると、有頼は阿弥陀如来の化身である熊を矢で射てしまい、傷を負った阿弥陀如来に霊山を築くように告げられたという。また、立山は富士山、白山とともに日本三霊山と称せられ、日本百名山、花の百名山の一つ。

赤色のナナカマドや黄色のミネカエデ・ダケカンバなどの紅葉・黄葉、色づく草の立山、浄土山などに感嘆しながら、筆者は寒くなり上着を着て、一ノ越まで続く石を埋めた舗装道路を緩やかに上った。約半世紀前は石・岩のゴロ

ゴロ道だったと記憶。下山してくる人は誰もが山頂は突風で吹き飛ばされそうであった、と言う。残雪も望み、8:46 祓度社、9:10 一ノ越 2700m に達した。

7:56 紅葉と浄土山(右手前)、立山

8:01 紅葉・黄葉と立山

8:08 ナナカマドと浄土山(手前)、立山

8:09 紅葉・黄葉とハイマツの緑の山肌

8:14 石畳の登山道を進みながら振り返る同行者

8:15 浄土山と立山(左)

8:20 浄土山の残雪を見上げる

8:21 立山山頂の雄山神社(中央)を望み感動

8:46 小さな祠/祓度社

9:04 タテヤマリンドウ

9:09 一ノ越山荘と標識板

9:12 一ノ越山荘前の筆者

9:14 一ノ越からの光景

その向こうに山頂の神社を見上げた現在、突風は時々吹くが、ほとんど風が吹かない時間も多い。地形からして山頂も同様だろう。下山者は突風を強調したのだろう。安心して、一ノ越のバイオトイレで用をたし、山頂を目指す。しかし、石畳の道から激変して大小の岩石が折り重なる急登。短くした杖はほとんど使えず、岩につかまりながら必死で上り、突風がくると、岩にしがみついて止むのを待った。今でもハーフマラソンを完走し、地域などで主体

となり積極的に活躍しており、同級生の中でも突出して体力抜群の同行者はどんどん進み、その姿を見失わないよう必死。復路で見込まれる急降下に帰れないのではと不安が頭を過ぎり、同行者に引き返すから、行ってくれと告げようとも思った。約半世紀前には折り重なる岩の急登を苦もなく上ったのだろう。記憶にない。それでも何とか頑張って、10:27 広く開けた緩傾斜面の三ノ越に到着。三ノ越からの眺望は非常に良くて槍ヶ岳・穂高連峰、水晶岳、笠ヶ岳、黒部五郎岳、薬師岳などの北アルプスや、白山、天候が良ければ遠くに富士山も望めるという。

10:27 三ノ越に到着

10:29 三ノ越からの眺望

10:30 三ノ越の筆者/後方は雄山神社

10:37 三ノ越から/遠方は槍ヶ岳・穂高連峰方面だろうか

10:37 三ノ越からの眺望/右は龍王岳、浄土山だろうか

10:37 三ノ越からの眺望/針ノ木岳、鳥帽子岳方面だろうか

大小の岩石のガレ場の坂道を上ると、四ノ越、さらに鳥居をくぐると五ノ越の祠があり、岩場の急坂を登ると、遂に感動の雄山 2992m に到達。その横には国土地理院の一等三角点と 360 度の山々の方角盤が設置されており、槍ヶ岳を望むことが出来た。すぐ近くの鳥居をくぐり雄山神社に、その向こうに雄山神社峰本社 3003m。登頂記念写真のシャッターを押してもらった後、360 度の絶景を撮影した。

11:00 五ノ越の祠

11:01 雄山神社を見上げる

11:07 雄山の一等三角点と方角盤

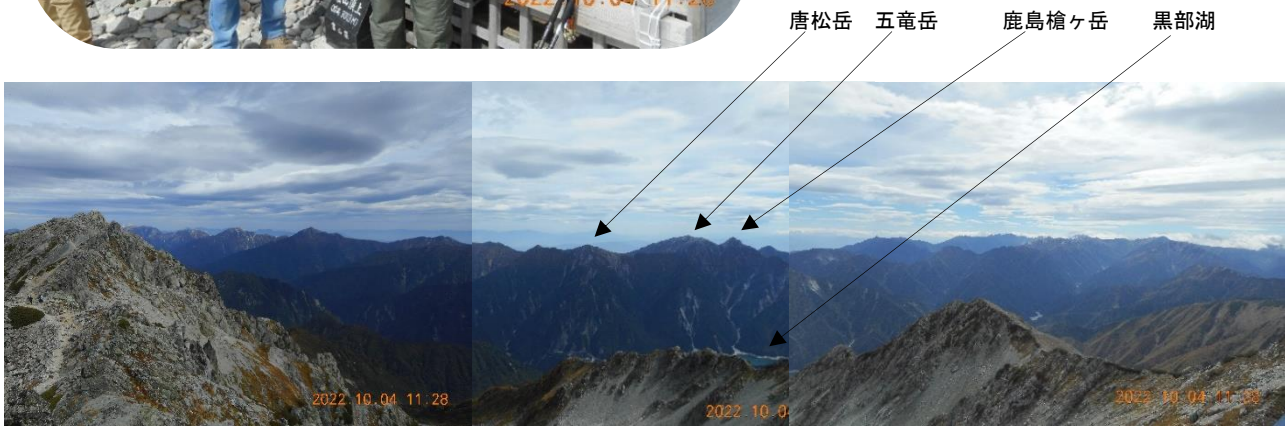
11:13 雄山神社の横の 2 人

11:18 鳥居と雄山神社峰本社

約半世紀前の髪がふさふさの筆者

/鳥居と雄山神社峰本社

11:28 立山・雄山登頂記念写真/雄山神社峰本社 3003m にて



雄山神社峰本社から 360 度の絶景（右回りに、その 1-1）

雄山神社峰本社から 360 度の絶景（右回りに、その 2）

雄山神社峰本社から 360 度の絶景（右回りに、その 1-2）

雄山神社峰本社から 360 度の絶景（右回りに、その 3）

雄山神社峰本社より数 10m 引き返した所に、大汝山方面縦走路の標識。稜線沿いに先を進む同行者に遅れないよう岩稜帯を歩いた後、大小岩石の急登を登ると、12:47 そこは、遂に感嘆の大汝山の山頂 3015m。

11:42 大汝山方面縦走路の標識

11:51 同行者が振返って筆者を見る

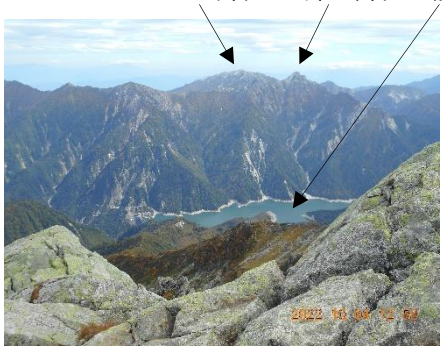
11:55 山頂を目の前に仰ぐ

12:35 山頂直前の急登

山頂は大小の岩石が折り重なっている。風化し、ようやく読める大汝山山頂の標識棒が立っており、立山大汝山・3015 と書かれた板が置いてあった。数名の登山者がいたが、ほとんど足場がなくて記念写真撮影待ちとなっている。地図には展望マークが記入されており、天候が良ければ後立山連峰や富山平野・富山湾、遠くは能登半島まで一望でき、さらに雄山の左に富士山、右に白山を望むことが出来るという。

12:52 大汝山山頂の筆者

12:57 山頂からの光景



12:58 黒部湖とスバリ岳、針ノ木岳

12:58 黒部湖の黒部ダムをズームアップ

12:59 中央右は浄土山だろう

12:59 右よりミドリガ池、ミクリガ池、立山ホテル、みくりが池温泉(中央)だろう

13:03 立山・大汝山登頂記念写真/大汝山山頂 3015m にて

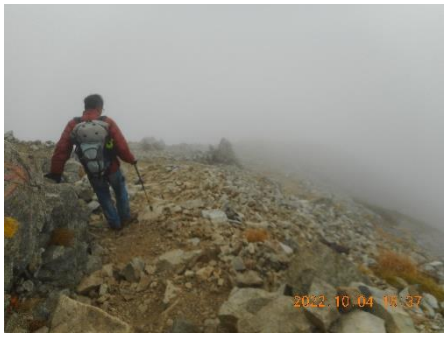
13:11 立山大汝山の板を胸に、V サインをする筆者

約半世紀前の大汝山山頂標識/現山頂標識の岩場横

余裕があれば富士ノ折立 2999m までと計画していたが、立山３峰のうち最高峰の大汝山登頂で大満足、往路を引き返すこととした。13:55 少し下った所にある大汝山休息所は登山時期を過ぎているのか、入れず。風を避けて建物の裏側に座り、遅い昼食をパンとペットボトルの水で済ませた。

次第に空は曇り、霧が発生、立ち込めてきた。この頃にはあの突風はほぼ治まったが、膝関節軟骨摩耗の筆者にとって、霧の中にヘッドランプを付けて、石畳からあの激変した大小岩石が折り重なる急登を下ることになっては大変と、先を急ぐ。ところが、案ずるより生むが易し、いつの間にか、あの急登を下ってしまっていた。16:17 石畳の道でイワヒバリ（岩雲雀）に遭遇し夢中でシャッターを押した。下山するに従って、霧は上方の山の中となり、朝とはまた異なる紅葉を満喫しながら進み、14:40 連泊のみくりが池温泉に着。

14:47 霧にむせぶ雄山神社峰本社と鳥居



15:37 霧の中を下る同行者

16:17 石畳の道にイワヒバリ

16:40 霧に覆われた立山の下方の紅葉・黄葉とハイマツ

16:48 夕方の紅葉・黄葉

ゆっくり温泉につかり、今日の疲れを癒やすのに丁度適当な時刻。入浴後 19:00 から、筆者は生ビール中ジョッキー・700 円、同行者は昨日と同じビールで、立山登頂成功を祝して乾杯し、昨日と同様に豪華な夕食。就寝。

17:01 チングルマ（珍車）の赤橙色の葉と果実

10 月 5 日（水）6:00 から朝食。8:00 往路を帰宅の途に。天候は良くないが、幸い雨は降らず。立山高原バスでは車窓から、屋久島の屋久杉に匹敵するという弥陀ヶ原杉を見ることができた。昼食は富山駅舎内の越中茶屋に入り、造りと魚・880 円。またの再会を期して、西と東に向かう新幹線に乗車。17:00 頃に帰宅。入浴後、缶ビール 350mℓで乾杯し、夕食。

8:02 みくりが池温泉の広場にて

8:09 今朝のミクリガ池

9:29 車窓の弥陀ヶ原杉

11:59 富山駅

13:24 西に向かう新幹線